

笑顔大好き

発行者：常井洋治
〒319-0205 笠間市押辺1745
TEL.0299-45-6818
FAX.0299-45-0818



▲現在の県立こころの医療センターには、かつて筑波海軍航空隊があり、太平洋戦争末期、フィリピンや沖縄に特攻隊員として出撃し、73人が戦死した。同航空隊友の会（高野克己会長さん）では、旭町地内に慰霊碑を建立し、元隊員、遺族らが毎年慰霊祭を行っており、今年も約100人が全国から参加した。代表として献花した、元特攻隊員の柳井和臣さん（91）＝広島県在住（写真手前）＝は、「ただひたすら祖国の安泰を念じつつ、亡くなった戦友たちに心から冥福を祈り、後世に伝えたいと願っている」と話した。元隊員らも高齢化し、風化が心配される中、今回は次世代に平和への思いをしっかり伝えようと、同跡地に建つすみれ幼稚園に呼びかけ、園児60人が初めて参列し、手を合わせた。この地元の歴史をきちんと伝え、戦争の恐ろしさと平和の尊さを引き継いでいくのが、私の大きな責務と思っている。（写真撮影は同友の会事務局長 南秀利さん）（25年6月）

県立中央病院がDPCⅡ群で 全国13位の高い評価

中央病院は、大学病院本院（DPCⅠ群、80病院）に準じた診療技能を有する病院（90病院）＝DPCⅡ群＝の中で、2013年度13位になりました。高度な医療技能を有する病院として高い評価を得ました。（DPCⅢ群は、その他の急性期病院群、1,326病院）

永井秀雄院長はじめ、スタッフの努力が着実に成果として現れています。



▲永井秀雄院長と築後25年を経過した同病院の建て替えと将来構想について意見交換をした。院長室にて。（25年7月）

県立中央病院 手術支援ロボット 「ダヴィンチ」が9月稼働

前立腺がんや、婦人科の手術などに有用な手術支援ロボット「ダヴィンチ」が、中央病院に導入されました。現在は、操作に熟練するために研修を行っており、9月から稼働する予定です。写真の機器が2台導入され、2人の術者が手術中に共同作業することもできます。



▲私もダヴィンチを模擬操作してみた（写真）が、操作はなかなか難しい。多くの命が救われることを願う。（25年7月）

常井洋治 一般質問 傍聴のご案内

- 10月10日（木）午後1時から2時まで
 - ①畜産試験場跡地への新設医科大学の誘致 ②県立中央病院の建て替えと医師養成センター構想
 - ③がん対策 ④超高齢社会への対応 ⑤県財政再建 ⑥筑波海軍航空隊本部棟の保存などを質問予定。
- 30分前に県議会議事堂に来て頂ければ、どなたでも傍聴できます。
- お誘い合わせのうえ、是非ともおいでください。（県議会事務局：029-301-5634）

地元笠間市を元気に！ とこい洋治が皆さんとがんばる

水戸土木事務所との勉強会で進行状況をチェック(7月18日)

道路関係

① 宍戸橋の早期架替及び大洗友部線の整備促進(今年度5,000千円)

- ・宍戸橋の架替は県庁道路建設課・河川課、水戸土木及び笠間市と協議を進めているが新橋整備は事業費が膨大になることから、単費での事業導入が困難な状況なので、河川事業との整合を図りながら、大洗友部線の拡幅工事(歩道整備を含む)を先行させる段階的な整備手法を検討中。
- ・事業化に向けた調査測量を実施するために、大洗友部線の地元説明会を開催した。(平成24年2月22日)
- ・昨年度は、宍戸橋を含む国道355号と大洗友部線の橋爪地区の測量並びに大洗友部線の概略設計を実施した。
- ・今年度も大洗友部線には調査費が予算化されているので、関係機関と協議しながら大洗友部線と宍戸橋の予備設計を実施し、線形が示せる段階になったら、再度地元説明会を実施する予定。

② 稲田友部線(本戸)の整備促進(今年度5,000千円、大型補正57,000千円)

L=2,260m(第一工区1,100m完成) W=11/6m

- ・現在の危険箇所の解消のためにも整備を進めていく。
- ・昨年度は道路改良工事(L=100m)と、バイパスから現道タッチまでの区間の調査測量を実施した。
- ・今年度は大型補正予算により、本線の道路改良工事(L=80m)と、バイパスから現道タッチまでの区間の市道の道路改良工事(L=100m)を実施する予定。

③ 富谷稲田線(稲田)の整備促進

L=2,100m(460m完成) W=10/6m

- ・用地取得を進め、早期に工事着手したいと考えているが、64名の共有地及びこの地区の公図修正(公図と現地で大幅なズレがある)が必要であるので、市と協議を進めていく。

④ 南指原岩間停車場線の整備促進

L=1,480m W=7/5.5m

- ・これまでに保安林の解除手続き及び民地の用地を取得した。
- ・今後は、道路整備に向けて国有林の用地を取得していく。(国有林20,600㎡、取得費約6,000万円)

⑤ 県道平友部停車場線(大沢跨線橋～県立こころの医療センター前迄:L=約1km)の整備促進(今年度8,000千円、大型補正70,000千円)

L=980m W=16/6.5m

- ・7月に開通した友部IC～大沢跨線橋(都市計画道路上町大沢線)の延伸を整備する。
- ・今年度は事業化に向けて地元説明会を実施するとともに、大型補正予算により、こころの医療センター交差点から約240m区間の整備を実施する予定。

⑥ 県道杉崎友部線の整備促進

ア) 南友部地区の整備(今年度38,000千円、H24補正20,000千円)

- ・平成22年度までに、JT前の工事を進め完了した。(歩道一部片側のみ整備)
- ・今年度は、同工事のため借り入れた土地公社資金を完済させる予定。また、工事承諾を得ている土地(市有地・児童館)の買収(20,000千円)については、来年度を予定。

イ) 小原地区バイパスの整備 L=1,600m W=14.5/6m

- ・これまでに土地公社資金を活用して創設換地分の用地を取得した。(H23・24年度で返済済み)
- ・南友部地区の土地公社資金返済(今年度)及び市有地買収

(来年度)後の平成27年度以降に着手できる見込み。

⑦ 茨城中央工業団地笠間地区、総合流通センター関連道路の整備促進

石岡城里線バイパスの整備促進

- ・総合流通センターの開発計画の進捗を踏まえながら、必要区間の整備を検討する。

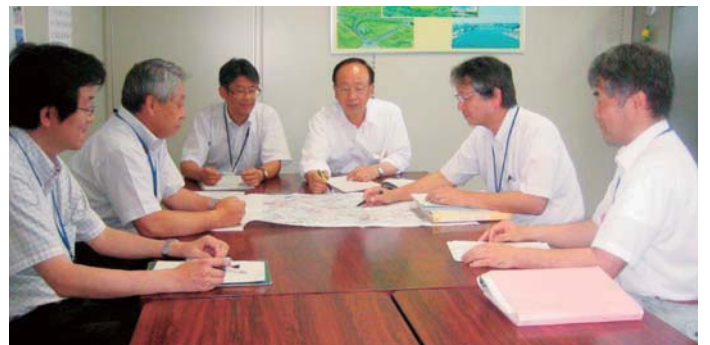
⑧ 上吉影岩間線の整備促進

ア) 押辺地区の整備 L=860m W=7/5.5m

- ・平成24年度までに全区間の道路改良工事が完成。
- ・今年度は、国道355号から小美玉市境までの笠間市への移管協議を進める。

イ) 下郷地区踏切の整備(3,000千円) L=165m W=8.5/5.5m

- ・平成21年度に岩間駅東京方面の踏切拡幅要望を受け、昨年までにJR、笠間市、県庁道路建設課と協議を進めてきた。踏切の東側の歩道設置を含めた整備計画を策定することになった。
- ・今年度は、道路詳細設計及び用地測量を実施するとともに、引き続きJRとの協議を進めていく。



▲水戸土木事務所全体の予算は、毎年度約100億円。笠間市への重点配分を藤枝宏之所長(正面左)ら幹部に要請。(25年7月)

⑨ 国道355号笠間バイパスの整備促進(今年度320,000千円、大型補正88,000千円)

L=5,200m W=18/6.5m

- ・4月に市道来栖飯合線から笠間市で施工している合併支援助道来栖本戸線までの約680m区間の供用を開始し、全体延長5,200mのうち現在約2,960m(56.9%)が供用済み。
- ・現在、国道50号から石井神社までの300m区間と、涸沼川橋から県道笠間つくば線までの900m区間の整備を進めており、来年度の供用を目指している。

⑩ (仮)南友部平町線の整備促進(今年度額50,000千円)

L=2,020m W=11/6m

- ・笠間市から受託(合併市町村幹線道路緊急整備支援事業)して工事を実施している。
- ・平成24年3月にやすらぎの森から国道355号までの約340mが供用開始した。
- ・今年度は、起点側(南友部地区)の道路改良工事(L=320m)を実施する予定。

⑪ 大洗友部線(仁古田境、一の橋付近を含む)の整備促進(大型補正60,000千円)

- ・今回の平成24年度大型補正予算により、茨城町側から延長220m区間整備を行う。
- ・また、仁古田境、一の橋から東側の茨城町区間については、移管道となるため、茨城町と移管について調整を進める。

⑫ 国道355号現宍戸橋の高欄(ガードレール)の補修(大型補正25,000千円)

・平成24年度大型補正予算により、今年度中に高欄铸铁(いもの)製に交換する。

河川関係

⑬一級河川溜沼川の改修事業の促進《戸橋近辺の未改修部分の早期改修》(今年度10,000千円)

・JR常磐線より戸橋までの680mを、隣接する主要地方道大洗友部線の整備との調整を図りながら進める。
・今年度は、排水構造物の設計を行う。

⑭一級河川溜沼川の改修事業の促進《旧笠間市街地内のふるさとの川整備事業の推進》(今年度10,000千円)

・柳堰の改築については、耕作者が減ってきていることもあり、取水方法について地元と協議しながら堰の代替え施設の整備を進める。
・今年度は、取水施設の詳細設計を行う。

⑮溜沼前川の土砂撤去と堤崩壊箇所改修継続(小原・市原地区)

・小原地区の江戸橋から谷津田橋までの1.5km区間に土砂が堆積している状況にある。
・平成21~24年度に810mの土砂撤去を実施した。また今年度当初に、古山橋~橋壁橋区間250m区間の土砂撤去を実

施した。今年度は引き続き、下流側の橋壁橋~第10用水機場区間150mの土砂撤去を行う。

⑯間黒川の土砂撤去

・箱田地区の第4用水機場区間~くみ橋700m区間に土砂が堆積している状況にある。
・平成24年度は間黒橋下流100m区間の土砂撤去を実施した。
・今年度は、くみ橋~間黒橋100m区間の土砂撤去を行う。

⑰巴川のJR常磐線付近の本格的改良促進及び下流部の土砂撤去

・現状での流下能力を少しでも向上させるため河道内に溜まった土砂撤去など維持管理を進めていく。

⑱県畜産試験場跡地の雨水排水調整池の整備促進

・今年度は、調整池下流側放流水路から着手する予定。

⑲一級河川片庭川の改修事業の促進

・箱田地区圃場整備事業に伴い河川整備を進めていく。
・今年度は創設換地補償及び橋梁(不動橋・上河原橋・土堂橋)の費用負担を行う。
・災害発生防止のため、昨年度に引き続き護岸工事を実施する。

⑳桜川、随光寺川(上郷、下郷地区)、南指原川(本戸地区)の土砂撤去

・堆積状況がひどい所から順次実施する。

県央農林事務所土地改良部門との勉強会で推進要請(6月28日)

(単位:千円)

事業名	地区名	工期	全体		H24年度 迄進捗率	H25年度予定	
			事業量	事業費		事業量	執行額
かんがい排水 (用水路、排水路)	霞ヶ浦用水Ⅲ期 (小原、鴻巣、五平、鯉淵、 住吉、随分附、湯崎、長 兎路、柏井、仁古田、平 町、南友部)	H 5 H31	用水路11km	934,000	76%	用水路1km	183,681
畑地帯総合整備 (区画、用水路、農道)	小原	H 7 H27	農道12km、暗渠10ha 区画整理72ha	1,257,000	96%	付帯工1式	30,000
経営体育成(水田) (区画、用水路、農道)	箱田中央	H16 H26	区画整理48ha	1,538,400	95%	付帯工1式	76,010
	滝川	H18 H27	暗渠排水19ha 区画整理22ha	842,300	91%	集落道路0.2km	112,967
経営体育成(水田) (用水路、排水路、農道)	友部小原	H22 H27	用水路152ha 排水路4km、暗渠152ha	922,800	50%	用水機場2ヶ所 用水路22ha	195,250
	北川根	H25 H30	用水路120ha 排水路2km、農道3km	902,000	0%	測量試験費1式	30,000
農村振興総合整備 (農村の生活環境整備)	友部(友部全域)	H16 H26	農道4km、集落道路1km 活動拠点施設1カ所	934,300	99%	ため池1ヶ所	13,000
農業集落排水 (農村の下水道)	友部北部Ⅰ期 (久保下寺、新宿、原坪 などの小原地区)	H20 H25	処理場1ヶ所 管路10km	1,278,000	98%	処理場0.1ヶ所 管路0.2km	40,000
	友部北部Ⅱ期 (滝川、香取などの小原地 区及び鯉淵地区の一部)	H25 H30	管路16km	1,614,000	0%	全体実施設計1式	70,000
農業生産基盤整備 (区画、排水路)	大古山	H24 H28	区画整理8ha	255,000	35%	調整池整備1式 排水路1km	130,000
計	10地区			10,477,800			880,908

県動物指導センター(笠間市)での犬の殺処分頭数が7年連続日本一

笠間市にある同センターでは、24年度3,177頭の犬が殺処分され、茨城県は殺処分頭数7年連続日本一の不名誉が続いています。

また、同センターでは、猫も24年度3,197頭殺処分されています。

私は、飼い主の動物を正しく飼う意識を向上させ、このようなむごい現状を早急に直していかなければならないと考えています。

身近な動物の命を大切にすることが、人の命を大切に作る社会づくりにつながります。



▲現在炭酸ガスによる殺処分を行っているが、犬に苦痛を与えているとの指摘がある。私は、吸入麻酔薬で眠らせてから殺処分する方法の試験に立ち合った。(25年7月)



▲農業基盤整備や農村環境の向上は、一朝一夕ではできない。着実な推進を安見精造部門長(中央)に要請。(25年6月)

平成25年5月23日、東海村にある大強度陽子加速器(J-PARC=ジェイ・パーク)ハドロン実験施設で、ビームの取出装置の誤作動により、生成された放射性物質が施設内に発生し、さらに換気扇を稼働したことにより、管理区域外へ漏えいした。県への事故の報告は1日半後だった。施設内では、34名が被ばくした。施設の敷地境界での最大線量は、0.29マイクロシーベルトであり、法令で定める限度の1ミリシーベルト/年を下回った。しかし、福島第一原発事故による健康不安や風評被害が今なお続く本県にとって、原発以外の施設での放射性物質の漏えいとそのずさんな管理が露呈した今回の事故は、大きなショックを与えた。

J-PARC事故に係る連合審査会(要約) (H25.6.12)

**●J-PARC事故原因の徹底究明を
●事故防止策として、職員の教育体制
や責任体制を見直すべきだ**

常井委員 J-PARCにおける事故の原因として、いくら外部に放射性物質を漏らさない施設を設けても、それを扱う人の管理体制や教育体制の不足があったのではないかと。福島第一原発事故以降、放射性物質を発生し得る施設として、J-PARCでは管理基準や教育体制の見直しは行ったのか。



▲県議会で、総務企画委員会と防災環境商工委員会の合同による連合審査会が行われた。(25年6月)

池田J-PARCセンター長 福島第一原発事故以降の管理基準や教育体制の見直しは、特段実施していなかった。今後、今回の事故を踏まえ、教育体制や訓練体制を整えていく。

常井委員 事故に関する県への通報が1日半もかかっている。これは、J-PARCが高エネルギー加速器研究機構(KEK)と日本原子力研究開発機構(JAEA)との共同運営による責任体制が不明確だったからであり、体制を見直す必要があるのではないかと。

池田J-PARCセンター長 施設の構造や職員の教

育体制の不足などのほか、共同運営による命令系統の不明確さなど通報が遅れた様々な要因を洗い出し、管理体制や組織のあり方を見直していく。

常井委員 J-PARCは、世界中から科学者が集まり、有効な研究に資するための施設である。今後も引き続き、事故原因の徹底究明と管理体制の見直しをしていくべきだ。

防災環境商工委員会(生活環境部)(要約) (H25.6.12)

●県は、ただちにすべての原子力事業所への立入調査を実施すべきだ

常井委員 本県には原子炉施設や、J-PARCのように、研究を目的として放射性物質を取扱っている事業所が18か所ある。今回の事故を「対岸の火事」にしてはならない。これらの施設に対し、県は関係法令以外の面においても対応すべきではないかと。

服部原子力安全対策課長 各施設と締結している原子力安全協定に基づき、立入調査を実施し、安全管理体制について確認を行うほか、今回問題になった通報連絡体制についても抜き打ち訓練を実施していく。また、すべてのトラブルについて報告を求めていく

ほか、県や市町村、各施設から構成される協議会において、通報連絡体制の研修等を行っていく。

常井委員 県は原子力事業所に対して、抜き打ちで調査できる権限を有している。県民の安全・安心を確保していくため、また、原子力に対する県民の理解を得るため、18の事業所すべてについて、ただちに調査を実施すべきではないかと。

服部原子力安全対策課長 人員的・物理的にも厳しいところがあるが、できるだけ早期に調査を実施していきたい。

(※その後、7月12日、県は18事業所に対し、安全管理体制に係る調査を実施すると発表。)



▲友部グラウンドゴルフ協会(小松崎勇蔵会長さん)の大会の始球式に臨む。惜しくもホールインワンは成らなかった。(25年5月)



▲「道の市」笠間ハンドメイドin弁天町は、今年も大にぎわい。大嶋実行委員長、いな吉君と。(25年6月)



▲友部IC〜宍戸小裏〜大沢跨線橋の都市計画道路上町大沢線が開通。宍戸小のプラスバンドの皆さんが華を添えてくれた。(25年7月)



▲上郷地域ホテル増やそう会(鈴木裕士会長さん)が茨城県美しい水土づくりで知事賞に輝いた。どんと焼きなどを通して次世代の愛郷心を育てている。(25年7月)



▲柏井地区入口の県道城里石岡線にかかる竹木の伐採の依頼があり、早速対応した。(25年7月)



▲岩間地区グラウンドゴルフ大会(藤枝好博会長さん)には、大勢元気な高齢者が参加した。(25年7月)



▲参院選の応援につくば市に入った小泉進次郎自民党青年局長の演説は絶妙だった。聴衆の中には笠間市の人。(25年7月)